



としまのまちを知りつくした
バスでめぐり、人とつながる、
「IKE BUSおじさん」
その生き方【前篇】

2021.10.29

#IKE BUS #都市整備部

[OVERTURE]

「IKE BUSおじさん」の愛称で親しまれる、IKE BUSの添乗員である城所さん。としまのまち・ひとに詳しい城所さんから、としまの魅力やIKE BUSへの想いを伺いました。



Profile

城所 信英さん

Nobuhide KIDOKORO

としま未来文化会議座長・東京都ユネスコ連絡協会理事をはじめ、20近くの団体やネットワークに所属。ひとのつながりを大切にしながら、としまの持続可能な未来の実現のために精力的に活動している。

「出発進行!」。豊島区内を走るまちなか交流バス・IKE BUS内に響きわたるこどもたちの号令。IKE BUS名物とも言われる添乗員の城所信英さんが、今日もにこやかに声をかけながら、まちをめぐります。

城所「IKE BUSは路線を巡回するだけでなく、貸し切りで園児の送り迎えや豊島区の名所をめぐる『IKEBUSアトカルツアー』を行っています。今日は区内保育施設の活用事業の一環で、サンシャイン水族館までの送り迎えです」

窓の外の景色に興味津々なこどもたちが元気いっぱい手を振ると、消防員や商店街の店員、池袋に遊びにきた学生も思わず笑顔に。その中には、城所さんと縁深い人もたくさんいます。

城所「20近くの団体やコミュニティで活動しているから、街のお米屋さんや文房具屋さんをはじめ、たくさんの人とつながっているんです」



「この花は何の花?」「上り坂だ!IKE BUSを応援しよう!」園児たちも楽しそうにおしゃべりに興じています。IKE BUS・No.1ドライバーの篠田さんと一緒に園児を目的地に送り届けると、城所さんがIKE BUSについて教えてくれました。

城所「もともと欧州のトラム(路面電車)のような、街に魅力的な彩りをそえる乗り物に興味がありました。

しかし豊島区の場合、より路線の自由度が高いバスのほうが実際的だと思っていました。

そんな折に、高野之夫豊島区長のイニシアチブのもと、インダストリアルデザイナー・水戸岡 鋭治氏にもご協力をいただき、

グリーンスローモビリティ※を活用した魅力的なIKE BUSの運行が実現したのです」

城所さんによるとIKE BUSは1号車から10号車まで、すべて内装が異なり、7号車にいたってはラッキーセブン・幸せの黄色の車体になっているとのこと。さらには、車窓から見えるスポットも、日本一高いスカイツリーと世界一高いごみ焼却場の煙突が左右に見えるポイントや、こどもが喜ぶサッカーボールのオブジェなど、知られざる名所がたくさん。

城所「IKE BUSの活動は生きがいですね。楽しいし、エネルギーをもらえるんです。大学時代は応援団をしていたこともあって、話すことは好きです。一番適任だからやってくれ、と運営を任せられました」

バスに乗る人も、街で過ごす人も、みんなを明るく笑顔にする城所さん。

後編では豊島区・大塚で育った城所さんに豊島区への想いを伺います。

※時速20km未満で公道を走ることができる電動車。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



TOSHIMA
International City
of Arts & Culture



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています